

## ウイルスソフト

ちょうど一年前、香港では拘束した刑事事件の容疑者を中国本土に引き渡せるようにする「逃亡犯条例」改正案の反対運動が拡大していた。撤回を求める市民や活動側に対し、林鄭月娥行政長官は「寿終正寝」と述べ、「撤回」とは明言しないまま幕引きを図ろうとした。

「寿終正寝」とは天寿を全うしたことを意味する中国語であるが、まだ成立していない法案がいきなり天寿を全うしたと言われても何かしつくりこない表現である。本来「胎死腹中」（死産、日の目を見ないまま葬られる）と言うべきではないかと現地では話題になった。

あれから1年。香港の頭越しに中国政府が「香港国家安全維持法」を制定した。逃亡犯条例は中国国内で罪を犯さなければ何の問題もないので、中国と往來のない人には無関係



である。香港人が香港で何をしても叫んでも、中国当局は手が出せなかった。しかし、今回は香港内での行為が犯罪対象なので、一部の活動家のみならず香港市

民全体にかかわる大問題である。これまでは当たり前だったデモや集会、言論の自由はなくなるのか。市民も委縮せざるをえない。場合によっては、中国に移送されるの取り調べや裁判の可能性もある。どちらの法律が香港市民にとって苛酷なものか、「加倍奉還」（倍返し）と言つてよい。

中国は「ネット競技（バレーボールなど）は強いが、ゴール競技（サッカーなど）には弱い」という説がある。一年前に民主派が仕掛けた「ゴール競技」型の戦いから、中国は「ネット競技」型に持ち込んだ。米国を巻き込んで中央と対峙しようとした活動は中国政府の介入を招く口実を与えてしまった。「強制終了」という結末は悲しい。

香港マカオ事務弁公室副主任は、今回の法律を「独立分子を撃退するためのウイルスソフト」と呼んだ。たしかに同法は治安対策上の効果を求めるもので、経済活動や市民生活を円滑に行うのが目的ではない。他方、ウイルスソフトは通常、PC動作を重たくするものである。このソフトのインストールで香港社会の動作環境が改善されるのか、はたまた不具合が生じやすく使にくくなってしまふのか、「二国二制度」が50年の寿命を全うすることなく「寿終正寝」とならないようただただ祈るばかりである。

（アジア研究所教授 遊川和郎）

## \* 研究所だより \*

### 研究会成果

アジア研究所では、学内外の専門家からなるプロジェクト研究会（期間2〜3年間）を設置しています。

この度、左記の研究会成果報告をWebにて公開いたしました。

<https://www.asia-u.ac.jp/laboratory/project-report/>

○創設50周年を迎えたASEANの課題と展望

（研究代表者：石川幸一）

○転換を迫られる韓国の対外経済関係

（研究代表：奥田聡）

○アジアにおける労働市場の現局面

（研究代表者：宮本謙介）

○習近平政権第二期（前半）

（研究代表者：遊川和郎）

○高等教育におけるグローバル人材の国際比較と21世紀型「リベリヤン」

（研究代表者：九門大士）

○「一带一路」経済圏構想と東アジア共同体の相関関係

（研究代表者：范云涛）

よくぞ、活用ください。

### アジア叢書

『アジア叢書第34巻』『対立から対話へー激動する朝鮮半島情勢を読み解く』も発刊しました。

『アジア研究所公開講座・セミナー』『アジアウォッチャー』

現在、オンラインにての開催の準備をしています。

内容・日時については追って連絡いたします。

今しばらくお待ちください。